

地球を 読む



米トランプ政権の関税政策によって、世界の貿易システムが大きく揺らいでいる。自由貿易体制は重大な危機に直面していると言われている。

では、自由貿易体制とはそもそもどのようなものであり、危機とは具体的に何を指すのか。

世界の貿易システムを支えたのは、第2次大戦後のブレトンウッズ体制のもと

で成立した「関税・貿易一般協定」(GATT)がト)と、それを改組して1995年に発足した世界貿易機関(WTO)だ。

GATTは西側先進国が中心だったが、WTOには新興国や途上国も積極的に

参加して、より多くの国や地域に広がった。特に重要なのは、2001年の中国の参加である。

ここで言う自由貿易体制

は、中国がWTOに参加した後に発展した通商システムを指す。主要国間で最終

参加して、より多くの国や地域に広がった。特に重要なのは、2001年の中国の参加である。

ここで言う自由貿易体制

は、中国がWTOに参加した後に発展した通商システムを指す。主要国間で最終

参加して、より多くの国や地域に広がった。特に重要なのは、2001年の中国の参加である。

ここで言う自由貿易体制

は、中国がWTOに参加した後に発展した通商システムを指す。主要国間で最終

参加して、より多くの国や地域に広がった。特に重要なのは、2001年の中国の参加である。

ここで言う自由貿易体制

は、中国がWTOに参加した後に発展した通商システムを指す。主要国間で最終

伊藤 元重

東大名誉教授



自由貿易体制

中国の躍進 米に危機感

製品や資源を売買する旧来型の貿易だけでなく、世界中にサプライチェーン(供給網)が張り巡らされ、国境を超えた分業が世界経済の成長を引っ張る貿易システムだ。そこでは、複雑でグローバルな分業体制がと

製品や資源を売買する旧来型の貿易だけでなく、世界中にサプライチェーン(供給網)が張り巡らされ、国境を超えた分業が世界経済の成長を引っ張る貿易システムだ。そこでは、複雑でグローバルな分業体制がと

製品や資源を売買する旧来型の貿易だけでなく、世界中にサプライチェーン(供給網)が張り巡らされ、国境を超えた分業が世界経済の成長を引っ張る貿易システムだ。そこでは、複雑でグローバルな分業体制がと

製品や資源を売買する旧来型の貿易だけでなく、世界中にサプライチェーン(供給網)が張り巡らされ、国境を超えた分業が世界経済の成長を引っ張る貿易システムだ。そこでは、複雑でグローバルな分業体制がと

製品や資源を売買する旧来型の貿易だけでなく、世界中にサプライチェーン(供給網)が張り巡らされ、国境を超えた分業が世界経済の成長を引っ張る貿易システムだ。そこでは、複雑でグローバルな分業体制がと

製品や資源を売買する旧来型の貿易だけでなく、世界中にサプライチェーン(供給網)が張り巡らされ、国境を超えた分業が世界経済の成長を引っ張る貿易システムだ。そこでは、複雑でグローバルな分業体制がと

製品や資源を売買する旧来型の貿易だけでなく、世界中にサプライチェーン(供給網)が張り巡らされ、国境を超えた分業が世界経済の成長を引っ張る貿易システムだ。そこでは、複雑でグローバルな分業体制がと

製品や資源を売買する旧来型の貿易だけでなく、世界中にサプライチェーン(供給網)が張り巡らされ、国境を超えた分業が世界経済の成長を引っ張る貿易システムだ。そこでは、複雑でグローバルな分業体制がと

*この記事・写真は読売新聞社の許諾を得て転載しています。無断転載、複製を禁じます。

△2面に続く▽

地球を 読む

1面の続き

伊藤元重氏 1951年生
まれ。東大教授、学習院大教授
などを歴任。専門は国際経済
学。著書に「東大名物教授の熱
血セミナー 日本経済を「見
通す」力」経済大変動」など。

米国の製造業は、中国からの輸入急増によって大きな被害を受けた。

この状況を経済学的に分析した、デビッド・オートタ
ー米マサチューセッツ工科大学教授らの「チャイナ・ショック論」は、自由貿易が好ましいとしてきた学者たちにも大きな驚きをもって受け止められた。

中国からの安い輸入品との競争が激しい地域は、失業者の増加や賃金減少が顕著だ。生産年齢人口に占める働く人と働く意思のある人の比率を示す「労働参加率」の低下も目立つ。特に低学歴・低スキルの労働者への打撃が大きい。

もちろん、チャイナ・ショック論の論者たちも貿易の利益を否定しているわけではない。ただ、その利益（ゲイン）が社会全体に薄

保護主義コスト 議論を

く広がるのに対し、貿易の痛み（ペイン）は特定の地域や産業に集中する。

多くの人が貿易のゲインを実感せずに日々の生活を送っているのに対して、貿易のペインを感じる特定の人々は、輸入に対して強い憤りを感じる。

限を主張する保護主義が前面に出やすくなる。
米国の保護主義はトランプ大統領独特の考え方によるものだ、と見ている人が多いかもしれない。しかし、チャイナ・ショック論が指摘しているように、この30年ほどで発展したグローバルな貿易システムは、米国の経済に想像以上の大きなシ

貿易体制を支えてきたと言っても過言ではない。それらの原則を、WTOを支えるべき立場の米国が破っている。まさに自由貿易体制を危うくするものだ。

フラット化するグローバル経済の中では、企業の積極的な活動が重要な意味を持つ。どの国でどれくらい生産し、どの海外企業と連

携し、どの市場で販売を拡大するのか。企業は、これらの見通しに基づいて投資を行う。

するWTOの原則が、グローバルな企業活動の前提なのである。
トランプ関税による税率の引き上げは、目先の貿易に大きな影響を及ぼす。これも大きな問題なのだが、こうした一時的な影響とは別に、気にしなければなら

ないことがある。
関税が頻繁に変更されるような環境となり、貿易に不確実性が持ち込まれることによって、中長期的な影響がどの程度生じるのか、という点である。

すでに述べた通り、この30年ほどの間にフラット化が進んだグローバル経済は、高い経済成長をもたらしてくれた。

保護主義の台頭で、そうしたフラット化のプロセスが後退してしまえば、経済成長に大きなマイナスの影響が出てくるだろう。

そこで問われるのは、ト

*この記事・写真は読売新聞社の許諾を得て転載しています。無断転載、複製を禁じます。